

## 05-6 2022年9月26日から2023年5月7日までの 新型コロナウイルス感染症発生届対象者の分析と発生届限定の意義について

北原瑞枝、長澤詩子、小林良清（長野市保健所）

キーワード：新型コロナウイルス感染症、発生届限定化、届出区分、転帰

**要旨**：2022年9月26日から2023年5月7日までに診断され、長野市保健所に届出のあった新型コロナウイルス感染者8,561例について、届出区分をパターン分けし、その後の転帰について記述した。届出時に入院が不要とされた人は、その後の入院、中等症Ⅱ以上の重症化、療養中の死亡の率が低く、症状悪化時の届出により対応可能であると考えられた。特に「重症化リスクがあり、かつ、新型コロナウイルス感染症治療薬投与が必要」の区分では、重症化した人はおらず、届出対象とする意義はほとんどないと思われた。今後、新たな感染症の流行において発生届を限定する場合には、保健所による対応が真に必要な人に絞ることも検討されるべきであろう。

### A. 目的

2022年9月26日から新型コロナウイルス感染症発生届の対象が、①65歳以上、②入院を要する、③重症化リスクがあり、かつ、新型コロナウイルス感染症治療薬の投与が必要または新たに酸素投与が必要、④妊婦、に限定された。5類移行される2023年5月7日までの間に診断され、長野市保健所に届出された感染者の届出区分と転帰を分析し、発生届限定の意義を考察する。

### B. 方法

2022年9月26日から2023年5月7日までに診断され、長野市保健所に発生届のあった新型コロナウイルス感染者8,561例のデータを使用し、発生届の届出区分の内訳及び届出後の転帰について記述する。届出区分は、上記③をコロナ薬と酸素投与に分けた5区分とした。

### C. 結果

#### (1) 発生届の届出区分内訳

期間中に届出のあった感染者の内訳は、女性4,810(56.2%)、年齢中央値75歳(最小0歳-最大108歳)、感染者の類型は、患者(確定例)6,779(79.1%)、無症状病原体保有者72(8.4%)、みなし陽性79(9.2%)、感染症死亡者の死体3(0.04%)であった。届出時の感染者の所在は、高齢者施設入所中1,304(15.2%)、医療機関入院中888(10.4%)であった。

届出時点の区分内訳及び転帰(感染症死亡者の

死体3例を除く)を表1に示す。届出区分を1~19にパターン分けすると、65歳以上単独が4,343(50.7%)で最も多く、次いで65歳以上+リスクかつコロナ薬が1,712(20.0%)であった。届出区分ごとでは、65歳以上7,298(85.2%)、入院を要する1,602(18.7%、重複あり)等であった。

#### (2) 届出後の転帰

入院した人は1,628(19.0%)、中等症Ⅱ(酸素投与が必要)以上に重症化した人は348(4.1%)、療養期間中に死亡した人は64(0.7%)であった。

届出時に入院が不要とされたパターン1、3、5、7の感染者では、その後入院となった率は1.6~5.5%、重症化した人は0~2.5%、死亡した人は0~0.6%であった。

届出時に入院を要するとされた1,602人のうち、887人(55.4%)は診断時点で他疾患により自院に入院中であった。パターン2、6、14等の入院を要するとされた感染者では、60.0~100.0%で入院となった。パターン別の重症化率は7.4~51.3%、死亡した人は1.0~20.0%であった。

### D. 考察

届出時に入院不要とされた人では、重症化したり、入院となったりした人の率が低く、多くは自宅で療養可能であった。パターン1、3、5、7は届出者の8割を占め、のちに保健所等によるフォローが必要となった人数が少なくないものの、重症化率は低く、輪番病院や救急受診等の医療体制が整ってい

たことから、症状悪化時の届出により対応可能であったと考えられた。特にパターン3のリスクかつ治療薬については、重症化した人がおらず、また、医療機関によって治療薬の処方判断にばらつきがあり、届出対象とする意義はほとんどないと思われた。

診断時に他疾患により入院している患者については、コロナは軽症や無症状の場合が多く、重症化した人を適切に医療につなげるという意味では届出の必要はあまりないと思われた。

重症化リスクに基づく発生届により、広くリスクの

ある感染者の情報が保健所に共有され、個別に療養に関する説明や積極的疫学調査が実施できたことは、感染者の不安解消や集団感染の早期探知には役立ったが、これらは感染者や施設からの相談、連絡でも対応可能と考える。

以上から、今後新たな感染症の流行において発生届を限定する場合には、保健所による対応が真に必要な人に絞ることも検討されるべきである。

**E. 利益相反**

利益相反なし。

表1 発生届の届出区分ごとの届出数及び転帰 (2022年9月26日～2023年5月7日、n=8,558)

パターン	届出区分					届出実数 (%)	転帰			
	65歳以上	入院を要する	リスク+治療薬	リスク+酸素	妊婦		入院数(%)†	うち診断時入院中の数	中等症以上の数(%)†	死亡数(%)†
1	○					4343 (50.7)	146 (3.4)	-	57 (1.3)	7 (0.2)
2		○				207 (2.4)	183 (88.4)	111	20 (9.6)	2 (1.0)
3			○			620 (7.2)	10 (1.6)	-	-	-
4				○		1 (0.01)	-	-	-	-
5					○	260 (3.0)	5 (1.9)	-	-	-
6	○	○				630 (7.3)	553 (87.9)	383	95 (15.1)	22 (3.5)
7	○		○			1712 (19.9)	94 (5.5)	-	43 (2.5)	10 (0.6)
8	○			○		11 (0.1)	-	-	-	-
9		○	○			124 (1.4)	114 (91.9)	90	9 (7.3)	-
10		○		○		10 (0.1)	6 (60.0)	2	3 (30.0)	2 (20.0)
11		○			○	19 (0.2)	13 (68.4)	-	-	-
12			○	○		1 (0.01)	-	-	-	-
13			○		○	1 (0.01)	-	-	-	-
14	○	○	○			465 (5.4)	377 (81.1)	269	48 (10.3)	14 (3.0)
15	○	○		○		13 (0.2)	10 (76.9)	1	5 (38.5)	-
16	○		○	○		6 (0.07)	2 (33.3)	-	1 (16.7)	-
17		○	○	○		19 (0.2)	15 (78.9)	7	8 (42.1)	-
18		○	○		○	1 (0.01)	1 (100.0)	1	-	-
19	○	○	○	○		115 (1.3)	99 (86.1)	23	59 (51.3)	7 (6.1)
計 (%)	7298 (85.2)	1603 (18.7)	3064 (35.9)	176 (2.1)	281 (3.3)	8558	1628 (19.0)	887	348 (4.1)	64 (0.7)

ーは該当者なしを示す、† (%)はパターンごとの届出実数に占める割合を示す